

春山一博

61歳。東京都出身・埼玉県在住。29年前に乗り始めた'80年式ローライダーは現在も「相棒」であり、約20年前に「ラティゴ」にてオーダーメイドで作ったサドルバッグはいまだ現役。



バッグ前部（下）の留め部分はマジックテープ付の革ベルトでサスペンションに、後部（下）は革ヒモでウインカーステーに固定させる仕組み。



蓋についたベルトと別体式の留め具。バッグの中に詰め込む荷物の容量によって、簡単に調整することができる優れたもの。遠出の時にキャンプ道具でいっぱいになるバッグだが、普段はバンジーコードや簡単な工具類だけしか入れない。

「それから走った後はメンテナンスをするように心がけています。シヨベルの魅力はハリーらしい振動と無骨さだと思っています。その無骨さに似合うサドルバッグは私にとって相棒であり、そして「一生の宝モノです」

使いつけて約20年にもなるというサドルバッグである。「用のある時だけ」ではなく、「普段からずっとつけっぱなしで約20年」なのだ。こういう事実を知ると、革というのは本当にタフな素材なのだと思える。
オーナーの春山さんが映画「イージーライダー」を観てハリーに憧れを感じたのは自身が18歳の時だったという。しかし高価なハリーはそう簡単に入手できるものではない。仕方がないのでヤマハXV750をチョッパりにカスタムして乗っていたが、30年前のある日、第三京浜を走っている時に真横を真っ赤なハリーが走り去っていった。そこでハリー入手への情熱が爆発。それからすぐ、車駒を探し始め、翌年にローライダーのオーナーになった。それからそのローライダーとは29年間も共に走り続けているわけである。しばらくして友人のハリーに装着したサドルバッグに「目惚れをしてみよう」「ローライダー」→「さすらいの旅」→「サドルバッグ」という三段論法もどきの展開は春山さんをして間髪入れずレザークラフトショップへと足を運ばせた。
「横須賀に「ラティゴ」という革屋さんがありましてね。友人の紹介ですぐ行って見たところ「バイクを見てからじゃないと」取り付け位置などわからない」と言われまして。そりゃそとおりだなと。既製品を簡単に売らんじゃなくて実車を自分で作り込むなんて、随分親切なお店だなと思えましたよ。
結果、念願のバッグを入手した春山さんは「バッグは愛車の一部」としてどこへ行くにも装着して走りまわった。
……が「革屋さんに叱られた」しまった。「まったくメンテナンスをしなかったんですよ。10年間ほど何もなかった。それを革屋さんに言ったら「革は生き物だからオイルを塗らなくては死んでしまふ」と叱られました。大雨の中を走り続けることもなかったため、幸いして革はまだ生きていた。
「それから走った後はメンテナンスをするように心がけています。シヨベルの魅力はハリーらしい振動と無骨さだと思っています。その無骨さに似合うサドルバッグは私にとって相棒であり、そして「一生の宝モノです」

約20年間使い続けているサドルバッグ。



長靴ながらウエスタンのテイストをふんだんに盛り込んだディテール。もちろん、長靴としての性能も折り紙つきだ。



柄モノの長靴を数多く揃える「NOMAD」のレインブーツの中でも、ひと際目を惹くスカル&ローズのペイント。ハードながらも、スカルにはどこか愛嬌がある。



ヒッピー
37歳。福岡県在住。アーリーショベル・ディガー所有。昨年事故に遭い、アーリーは修理中。最近では通勤バイクのエストリアで出没中。メタル好き。

雨の降る日はスカルが笑う。



通称「ヒッピー」。九州近辺のMTGジャングキーで彼を知らない者はいない。女性も嫉妬するスタイルの良さに加え、着る服もタイトなレディースウェア。その後ろ姿に女性と間違えて声をかけた男は数知れず。言うなれば、そのくらい身につけるモノにはこだわりのある男なのである。
そんな彼にも悩みがあった。それは雨のMTG会場。ぬかるんだ地面を愛用の革のウエスタンプーツで歩けば、みるみるうちにブーツは汚れ、中には泥水が浸水。これだけでも嫌なものだが、翌日も同じブーツを履く不快感は何年経っても慣れるものではない。そうなれば長靴の出番だが、一般に売っている不格好な長靴は彼の眼には止まらなかった。

そんな時にたまたまネットオークションで見つけたのが、アメリカのフットウエアブランド「NOMAD」のレインブーツ。そのデザインに一目惚れ。即購入に至った。
写真真がそのレインブーツだが、下派手なペイントはスカルにバラというなんとも80年代LAメタルな雰囲気。このあたりもメタルを愛するヒッピーの琴線に触れた部分だったのだが、さらに彼が注目したのはそのウエスタンプーツとしたシルエット。その形はウエスタンプーツを今まで何足も履き潰してきたヒッピーさえも唸らせる完成度だった。
「ソールの角度とか、爪先の尖り具合とか。あと長靴なのに力カトがしっかりしている。ここまでウエスタンの長靴なんて他に見たこと

なかったよね」
初めはそのビジュアルに惹かれての購入だったが、見た目だけでなく、長靴としての機能も十分すぎるほど。防水性・撥水性はもちろん、バイクにも普通に乗れる。力カト部分もしっかりしていて、キックスターも普通のウエスタンプーツと変わらない蹴りやすさだという。ソールのグリップ力もバッチリ。手に入れてからも数年が経つが、いまだにたいした劣化もなく、雨の日の必須アイテムとして愛用している。雨の日のMTGで皆が自分のタープから出たがらない中、下派手な長靴を履いた細身の男が近づいてきたら、それは間違いなくヒッピー。今日もスカルペイントが笑っている。